

史料にみる **歴史**

『倭寇図巻』に描かれた 後期倭寇

(東京大学史料編纂所蔵)

倭寇には、14世紀中頃から15世紀初頭に朝鮮半島から中国大陸沿岸を襲った「前期倭寇」と、16世紀に中国大陸沿岸から東南アジアに及ぶ地域で活動した「後期倭寇」とがある。

倭寇の姿とその活動を描いた絵画史料はほとんど残されていないが、唯一の例外がこの『倭寇図巻』なのである。いわゆる明末清初の17世紀に中国で描かれた作品。絹本着色の、天地32cm、全長522cmに及ぶ長大な図巻であり、後期倭寇がいかなる姿をしていて、どのような船に乗って中国大陸を襲ったのが、生き生きと描きだされ

ている。

同図巻を右から見ていくと、①まず倭寇の船が明の海岸に出現し、②船から上陸してきた倭寇が、あたりの様子を窺っている。③やがて倭寇の集団は次々に民家を襲い、掠奪・放火を行った。④画面上部には、倭寇の襲撃を逃れた明人たちが安全な場所に避難しており、⑤水上では明の官兵と倭寇の激戦が繰り広げられたのであった。⑥その結果、倭寇に勝利したことを本営に知らせるために乗馬の官兵が駆けている。⑦他方、城門が開かれ、明の官兵が続々と出撃してきている、という合計7場面が描かれている。要するに倭寇の襲撃と明の軍隊による撃退が描き出されているわけである。

ここでは一部分しか示せないが、上は③の場面であり、倭寇たちが民家を襲って、次々に掠奪品を運び出し、放火を行っているところ

である。下は②の場面で、倭寇船に乗っている倭寇たちが描かれている。彼ら倭寇は、頭を月代（さかやき）のように剃っており、丈の短い単衣の衣服を着ているから、いかにも日本人のように見える。だが、じつは後期倭寇の大半は明人で、その首魁の一人は明の密貿易商の王直であった。明の記録でも日本人は10～20%にすぎなかったとされている。つまり、後期倭寇は倭人を装っていたのである。また、2隻のうち下の船には、なんと女が2人もいる。倭寇船には女も乗っていたのだ。

なお、本図巻には鉄砲を持っている倭寇が描かれていて、以前から注目されてきた。最近の研究では、日本へ鉄砲をもたらしたのは倭寇であったとする説も出されており、その点からも興味深い絵画史料だといえよう。

(立正大学教授 黒田日出男)